

28 年振り返って

FG21 理事長 菊川熙英

昨年は、特定非営利活動法人フォレストぐんま 21（以下 FG21 という）は、元理事長が体調不良と役員改正の年と重なり役員改正が行われた。理事長には菊川が帰り咲き、新メンバーによる執行部体制が決まった。総会後ただちに新執行部がスタートした。新執行部のスローガンは、「礼は之和を以て貴とし為す」を標語として、これから行うであろう事業に対して真摯に実行していこうと心新たに決め実行しました。新しい年に入り、28 年度を振り返ってみますと 4 月行った企業の森をスタートに、太陽がガンガン照り付ける真夏の林道工事、多くの人達と触れ合うイベントでの「緑のダム」普及活動、9 月から本格的にはじめた真竹の皆伐、1 月には森林・山村多面的機能発揮対策事業等々実施してきた。

これらの事業全般にわたり「礼は之和を以て貴とし為す」その真価が現れました。中でも 28 年度の作業中、我々にとって 1 番難作業で長期間、そして危険が一杯潜在する車の往来が頻繁な道路に面した真竹の皆伐作業でした。「冬季通行止め未然防止事業」で真竹の皆伐作業（皆伐面積 0.5HA・真竹の数として推定 12,000 本以上？太さが 15~20 センチもあろうかと思う真竹群生・作業に従事した延べ日数 24 日・FG21 会員が参加した延べ参加人員 266 名）があげられます。温暖化であるといわれ中、珍しく 11 月に雪が降り慌てたこともありましたが、本格的に雪の降るまでに真竹の皆伐作業は、全工程終え地元の人達に引き渡したことで施主から感謝されております。この難作業を終えることができたのも全員が同じ目的を持ち、技量を研鑽して全員一丸となる団結力「礼は之和を以て貴とし為す」がバックボーンにあったからだと思っている。

今年も、昨年に引き続き特定非営利活動にも相通じる「礼は之和を以て貴とし為す」を合言葉として自然豊かな群馬の森・清らかな水・新鮮な空気・未来を担う次世代に緑のバトンタッチしていくためにも、多くの人達と共に「理想の森づくり」に精進したいと思っている。



皆伐前



皆伐後